

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291100016		
法人名	株式会社ケアサービス・久		
事業所名	グループホーム夕陽の丘		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町岡郷1669番地1		
自己評価作成日	令和1年10月11日	評価結果市町村受理日	令和2年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和1年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日の食材20品目を目標に食事提供しており、裏庭菜園での野菜作りや収穫作業も共にを行っています。日常生活では、インターネットやDVDでの昔の映像(歌謡曲や民謡、時代劇やドラマ)を流し活用しています。また、レクリエーションでは介護予防体操から始まり、歌を唄ったり風船バレー、折り紙や貼り絵、漢字書き取りや計算ドリル、カルタやトランプ等で五感に刺激を図っております。利用者様も十人十色の性格がございます。利用者様同士での口喧嘩も毎日のようにあっておりますが、お互い手を出さない限りスタッフが見守っております。毎日、笑い、怒って、涙し、賑やかな生活を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、食を生活の原点と捉えている。献立は敢えて立てず、利用者との会話から献立に繋げたり、事業所の菜園野菜や旬の食材で調理を行っている。また開設以来、排泄の自立支援に力を入れており、おむつはずしを重要事項説明書にも明記して実践していることは、高く評価できる。施設長は、家族とアプリを使ってコミュニケーションを密にする工夫を行っている。協力医の往診や訪問看護師との連携も万全であり、家族の安心に繋がっている。運営推進会議には、複数の家族が交替で出席しており、ここにも事業所への信頼度の高さが窺える。職員は、理念である「利用者は何をしてもらいたいか」を念頭に置き、本人本位に支援を行っている。利用者は、ゆったりとした時間を過ごし、職員と明るく冗談を言い合っている様子から、理念を具現化していると感じることができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関内と、事務所に掲示しており実践できている。	代表は、職員が常に理念を意識して、利用者の支援にあたるよう、玄関や事務所の目につく場所に6項目の理念を掲示している。入社時や業務の中で新人教育がある。職員は、利用者のその日、その時の思いを感じ取り、本人本位に対応するなど、共有して理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(ちびっこ相撲・ペーロン大会協賛)等に参加させて頂いている。また、町内清掃や近所を散歩する際は挨拶を交わし利用者様の顔を少しでも覚えて頂ける様心掛けている。	敬老会に、毎年音楽ボランティアの慰問がある。地域ロードレースでは、旗を作り応援している。AED設置情報を近隣に伝えたり、野菜や果物のお裾分けを行っている。また、介護・悩みごと相談をいつでも受け付けている。災害時の協力を確約するなど、近隣との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議内で、市町村職員、民生員さんへ「身近に認知症の事や介護の事でお困りや相談がある方がいらっしゃればいつでも施設へお越しください」等お伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の推進会議内で頂いた、参加者様からの助言を活かしている。	年6回、規定のメンバーの町役場職員や家族は、輪番で参加しており、協力体制が窺える。利用者状況・行事・事故・研修報告、衛生面や災害時の事業所での対応など報告している。参加者からの看取り後やその他の質問にも、真摯に回答するなど透明性があり、事業所への理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の連絡協議会に所属しており、GHIに必要な案件の会議には参加している。	介護保険手続きは、家族の協力のもと行っている。施設長は、相談事や事故報告、災害に関して気軽に意見交換するなど、役場職員とは馴染みの関係である。事業所は、役場の指定を受け、認知症サポーターの受入体制がある。研修案内には、受講して協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一度のケア会議内で、身体拘束会議も同時に行っている。また、身体拘束関係の研修や講習会には積極的に参加し、内部会議にて共有できている。	身体拘束廃止指針を作成している。毎月の会議でセンサーを含め、事例の検討を行い、全職員に周知している。職員は、町主催の高齢者虐待防止の研修を受講し、会議で報告している。言葉遣い一つでも、利用者が不安にならないよう、全職員で注意して拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待、身体拘束関係の研修会に参加しています。事業所内で共有し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者がいませんが、必要に応じて対応できるよう努めて行きたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を基に、ご理解頂けるまで説明し納得頂けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情受付箱を設置しているが、ご家族が訪問された際に、身体や近況報告を交え会話の機会を確保するよう心掛けている。	家族が来訪した際は、何でも聞いて下さいと伝えており、職員と家族は、良好な関係を築いている。希望する家族へは、施設長がアプリを活用し近況報告等を行い、コミュニケーションを図っている。敬老会には家族が集い、楽しいひと時を過ごしており、日頃の信頼関係が窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	皆の要望等がある場合は、主任を通じて、または直接言ってこれる雰囲気作りを行っており、反映できていると思います。	職員は、質問や要望がある際は、直接施設長と話ができる間柄である。高価な物品の購入については、会議にて希望を出している。各種行事の際は、施設長が担当を決め、職員が責任をもって携わっている。誕生日休暇を独自に設定し、働きやすい職場環境となるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誕生日休暇を増設し、給与には特別手当枠を設けて努めている。また、働き方改革にて有休消化を促して取りやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人でのスキルアップの為に研修は要望があれば対応できる体制を確保しています。また、必要に応じて研修や講習会に参加するよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎県グループホーム連絡協議会に所属しており、地域内のグループホーム代表同士の定期的な会食等に参加し勉強会や講演に参加させて頂ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	独自の調査票を基に、ご家族からの聴き取りを行い利用者様へのアプローチを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お話し合いの中で、十分な聞き取りができています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供書や施設独自の調査票をもとに、ご家族様やSWさんの意見をお聞きし対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと利用者様とは信頼構築が築けており、洗濯物を畳んだり、簡単な調理を冗談を交えながらホンワカした雰囲気の中で行っている。良いか悪いか分かりませんが、お婆ちゃんと孫の様な関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設で可能な事、不可能な事を話し合っており、ご家族のご協力も頂きながら、関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人知人の訪問は歓迎している。お墓参りやドライブ時の実家立ち寄りなど、家族の承諾がある場合は行っている。	家族の他友人の訪問が多い。誕生日には、家族が来訪し、他の利用者や職員と共に祝っている。誕生日に家族と外食に出掛ける人もいる。行きつけの美容室には家族が連れて行っている。利用者から職員へ年賀状の代筆を頼まれることもあり、馴染みの人や場所との関係を継続するための支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活では様々な利用者間トラブルが発生しますが、食卓席やソファでの孤立を防ぐ為、性格等を考慮した配置に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退所された方のお見舞いを通して、ご家族様の困りごとや相談を受けることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と、ご家族様との意向に食違いが生じた場合を除けば行えている。	入居時に、利用者の生活歴等の基本情報を得ている。職員は、利用者とは会話をする際、得た情報をもとにきっかけとなる話題を探っている。起床の時間は自由であり、朝食を取る時間は、利用者毎にさまざまである。事業所内での歩行訓練は、強制にならないよう利用者の意思を尊重しており、本人本位の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前聴き取り調査内でできている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のペースを把握共有できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の気付き等をケア会議内にて検討し合いプラン作成に努めている。	入居時に、前施設の情報や家族からの情報を得て、暫定プランを作成し、2ヶ月を目途に長期、短期ともに3ヶ月の介護計画を作成している。毎月のケア会議にて全職員で課題抽出し、モニタリング、サービス担当者会議を経て、達成度をケアマネージャーが判断し見直している。家族の意向は、電話で聞き、本人・家族の了承を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護日誌とは別に、スタッフ間で共有できる連絡帳にて、注意事項や連絡事項、プラン変更の取組みや新たな取り組みに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の急な要望や、その日の流れで支援できている。また、家族対応の事項でも家族要望があれば可能な限り対応できている。		

グループホーム夕陽の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内ボランティアさんによる演奏会や、行きつけの郵便局に同行したり、銀行員さんが訪ねてきたりと支援できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の掛かりつけ医をお持ちの方には個別対応できる体制を整え、緊急時の対応も訪問看護ステーションとの連携によりスムーズな搬送や受診できる体制を整えている。	ほとんどの利用者が、月2回の協力医の往診を受けており、内科、他科のかかりつけ医受診は、家族が同行している。歯科は、本人家族の希望により往診がある。家族対応時は、利用者の体調を記録した書面を家族へ渡している。また、看護師による週1回の訪問看護と夜間緊急時、主治医との連絡体制にて、24時間の医療連携が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションからの週1回の訪問時に相談やアドバイスを共有できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状経過等の連絡は密に行っている。スタッフは他者受診の際や、事業主は定期的に病室を訪問しコミュニケーションを図り、担当看護職から経過状況等を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期の指針をご家族様へお渡しし、説明している。また医療機関や訪問看護ステーションとも情報共有できている。看取ったケースもございます。	契約時「利用者の重度化対策、終末期ケア対応指針」を基に、家族に説明し「看取り介護の同意書」に同意を得ている。夜間は家族が泊り、看取りを行った事例がある。職員は、看取り後の反省会にて振り返り、主治医、栄養士、薬剤師に協力を得ながら、本人、家族の思いに寄り添った終末期を迎えられるよう、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	火災対応訓練時に、ダミー人形や訓練用AEDを用いて、誤嚥時の対処方法等の指導をうけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年二回の訓練を実施している。放火や漏電を除くと火元は限られるので、投げ込み式消火剤やてんぷら油消火スティックをキッチンへ設置。また近隣住民へ避難時の見守り等のお願いをし、快諾頂いている。	年2回の火災訓練を実施している。内1回は、消防署立会いのもと、夜間想定である。署員から水消火器の使い方の指導やAED心肺蘇生訓練も受けている。自然災害は、早めの情報収集と状況判断で施設長が対応を決定している。備蓄、非常持出を整備しており、近隣には、緊急時の見守りを願っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様と、ご家族様との意向に食違いが生じた場合を除けば行えている。	職員は、入社時に守秘義務に関する誓約書を提出している。会議等で使用する写真の使用に関しては、家族の同意書を得ている。利用者の呼び方は、苗字にさん付けであるが、名前で呼ぶ人には、家族の了解を得ている。夜のみ使用するポータブルトイレには、布のカバーを掛けている。ただし、パッドの袋をそのまま置いている部屋がある。	パッド類の収納は、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮することが望まれる。職員全員で、収納方法についてより良い方法を検討することに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事前聴き取り調査内でできている。また、日常会話の中で話題を誘導し探り探り聞き出せるよう努めています。が、会話成立できない事も有り中々難しいです。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを把握共有できていますが、9名全ての生活リズムが噛み合わない事ばかりで、スタッフ都合になる場合もありますが、努力はしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望があれば、白髪染等行っている。また、必要に応じ髪留め類を用いて支援している。以前はボランティアさんにより美顔エステ器を用いてマッサージ等も行っていました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	あえてメニュー表は作らず、会話のネタになる様利用者様と決定している。また、可能な方には簡単な調理準備や裏庭菜園等行っている。	食事は職員の手作りである。利用者に何が食べたいかを聞き、前日に献立を決めている。利用者は野菜の皮むき等を手伝っている。クリスマスや誕生日には、ケーキで祝っている他、事業所の菜園で栽培している野菜を献立に取り入れれたり、ホットケーキを利用者と一緒に作るなど、食事が楽しいものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時の水分補給以外に、二回の補給時間を設定しているが、それ以外でも声掛けにて水分補給を促がしている。また、食事は前日と被らない材料を使用し工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月/2回の歯科医訪問にて、清潔を保ちかつ、衛生士からの助言を頂き実践できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の拒否や、止むを得ない場合を除き、オムツ外しを促進している。	事業所の開設以来、おむつを使わないことを目標としている。トイレでの排泄を基本とし、ポータブルトイレは、夜のみが多い。排泄チェック表をつけ、利用者の一人ひとりのパターンを把握している。ケア会議でパッドの枚数等の検討を一人ひとり行い、改善できないかを常に探っており、現在おむつを使用している人はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護ステーションからの週1回の訪問時に相談やアドバイスを共有できている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は決まっているが、個別の対応も行っている。また、入浴拒否が有る場合は、時間をずらし声掛けを行ったり、浴室ドアへ効能パネルを掲示したり、入浴剤を数種類使用したりし楽しみの入浴になる様努めている。	週2回の間隔で入浴支援を行っている。体調が悪い場合は、清拭を行っている。介護度が高く浴槽に入ることが無理な場合は、足浴とシャワーを組み合わせている。浴室の入口に暖簾や温泉の効能書を掲げたり、入浴剤によりリラックスできる雰囲気を作っている。ドライブで近隣の足湯の施設にも出掛け、楽しいひと時を過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度や明るさには、利用者様の習慣等に合わせた対応ができている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	独自の服薬管理シートや振り分けBOXを作り、誤薬がないように注意している。また、掛かりつけ医のアドバイスを受け、個別のバイタル管理表を用いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力(裁縫・調理・園芸)を十分に発揮して頂けている。特に裁縫が得意な利用者様には、施設用の雑巾布巾類を作成して頂き、活用毎にお礼の言葉がけで充実した笑顔が見られる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望があった場合や、近所の散歩を心掛けている。不定期だが、ドライブにも出かけている。	天気のよい日は、事業所の玄関前で日光浴を行っている。近隣の足湯の施設で、寛いでいる利用者の姿がある。春には、花見に出掛けている。冬でも郊外に出かけ、直売所でみかんを買う楽しみを作っている。病院受診の帰りや誕生日に家族と外食をする利用者や正月を家族とともに過ごすために一時帰宅をする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じ、買い物へ出かけている。また、金銭管理の困難な方は事務所管理し出納帳も記録している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末の年賀状は行っているが、手紙等の要望があれば対応可能。また、電話に関しては要望があれば家族同意のもと行えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の生け花や、手作りカレンダーを、浴室ドアには入浴気分を出して頂ける様POPなどを使用している。また、リビングに西日が強く差し込む為、眩しさを感じる利用者様もおりましたので、遮光カーテンを設置しました。	リビングに隣接するキッチンの調理風景や利用者や職員の賑やかな談笑の様子は家庭のようである。貼り絵や生花、手作りカレンダーで季節感を出している。窓からの光は、遮光性カーテンで調整している。特に感染症に注意し、温度、湿度、空調管理、清掃もこまめに行い、清潔に整えた共用空間で、利用者がゆっくり寛ぐ様子が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いてあり、団欒の場となっている。また、おやつ時にはソファと同じ高さのテーブルを新たに準備しリラックスできる環境を提供できていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居説明時に、なるべくならば新品を購入せず使い慣れた家具や寝具を使用して頂ける様説明している。	ベッド以外は、布団、筆筒、衣装ケース、椅子など、家庭の雰囲気そのままに、馴染みの物を配置している。誕生日プレゼントの色紙や家族写真など利用者の思い出の物を掲示している。共有空間と同様に、感染症に配慮し、空調管理、次亜塩素酸消毒、超音波加湿器、清掃で、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室には目印になるものを設置している。		